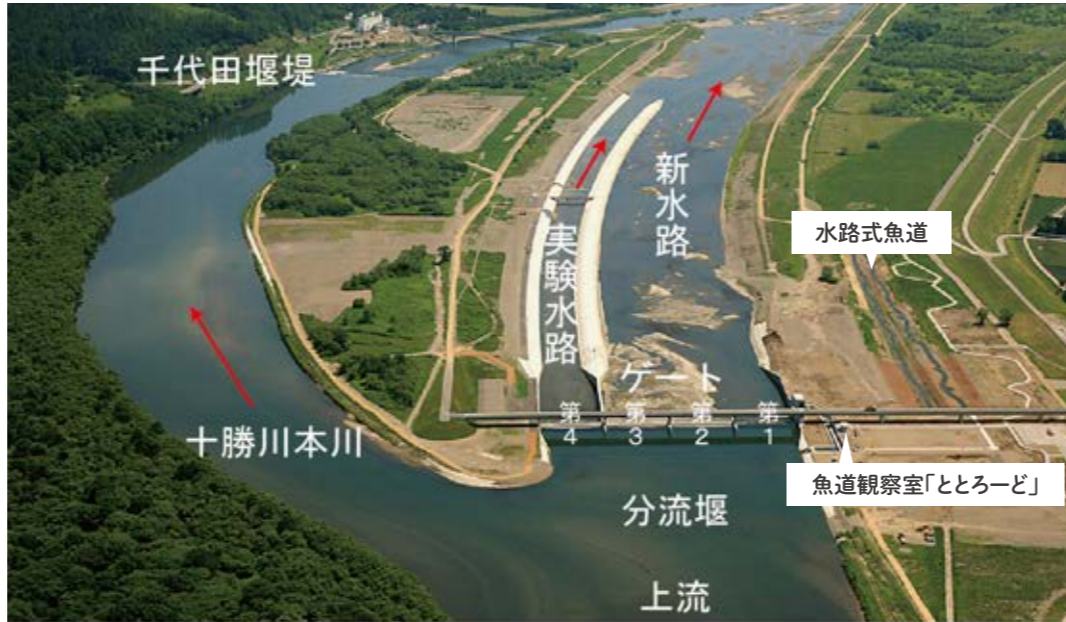


# 千代田新水路

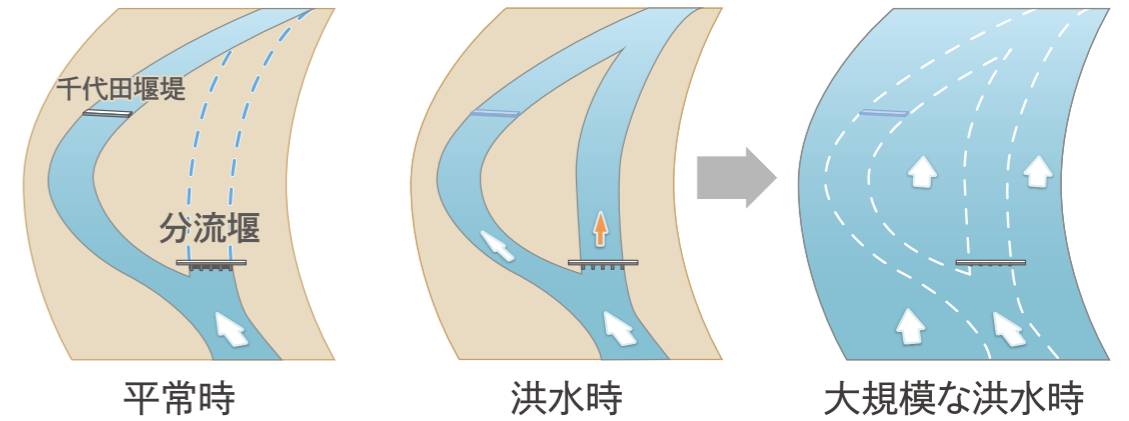
農業・洪水・環境・観光  
における重要な水路



「千代田新水路」上流側上空から見たところ

十勝川中流部に位置する千代田堰堤は、昭和10年に設置された固定堰で、その高さは十勝川の計画河床高(計画の川底の高さ)より5.6mも高くなっています。また、低水路も左側に大きく湾曲しており、洪水時のスムーズな流れを阻害し、洪水を安全に流下させることができません。一方で、農業取水施設やサケの捕獲場、観光資源としてもとても重要な役割を果たしています。地域の財産である千代田堰堤を残すとともに流下能力不足を解消し、治水安全度を向上させるため、右岸側の高水敷に新しい水路を掘削しました。新水路の上流部には分流堰を設け、通常時は分流堰ゲートを閉めて現低水路に水を流し、洪水時には分流堰ゲートを開けて新水路に水を流し、洪水を安全に流下させます。

また、実河川スケールでの様々な実験・研究を行う施設として、新水路の一部を実験水路として活用し、ここで得られた成果を元に、河川管理に関する課題の解消に役立てています。



千代田新水路のイメージ



新水路での氾濫実験の様子

川は国民共通の  
大切な財産!!

## 河川の管理と維持補修

堤防などの河川管理施設の機能を発揮できるよう、堤防除草、天端補修をはじめ、洪水時に備えた流木除去、排水機場や樋門の点検・整備などを行っております。また、河川管理施設や河川の状態などに異常がないか定期的な点検・巡視を行っており、土地の無断使用やゴミの不法投棄など、河川区域内で不法な行為が行われていないかも監視しています。河川の監視については、監視カメラや水位・雨量テレメーターを活用し、効率的な情報の収集に努めています。

